ユートピアを目指して

株式会社和広
町田市 小山ヶ丘

温故知新（会社概要）

①鉄道車両部品業界になくてはならない企業

ものが溢れている現在、「壊れたら捨てる」という考え方がすっかり定着している。その背景には新しい技術同士の熾烈な生き残り競争というものもあるだろう。そんな中、ものを長く使う為、古くからの技術や考え方を大切にしている会社がある。和広だ。和広は東京都町田市まちだテクノパークの一角に立地し、鉄道車両部品製造とオーバーホール（メンテナンス）を主な業務内容としているメーカーだ。

鉄道車両（抵抗制御方式）の心臓部を主制御器という。主制御器は、直流モーターに対して電圧と電流を制御する装置だ。1980 年代からは半導体素子を用いて架線から供給される電気の電圧と周波数を調節して加速や減速に合わせてモーターのトルクと回転数を調節する VVVF 制御方式が主流になっているが、それ以前は抵抗制御が一般的であった。

抵抗制御とは主制御器内のカムスイッチの ON,OFF により抵抗器を一本ずつ足したり引いたりしてモーターに流れる電圧を調節する方法だ。構造が簡単でメンテナンスが容易であるという利点があるものの、電流変化がどうしても階段状になってしまいモーターのトルクを確保するために余分な電力を消費する。しかも、速度の調節をすると車両がガクンガクンと大きく揺れてしまうなどの問題点があった。

しかし、VVVF 制御方式は自由に周波数調整することができ、滑らかな速度調節が可能で乗り心地が向上する。そして、常に最適な電圧を得られるので省電力化も実現した。現在では高速鉄道など最新の車両を始め多くの車両が VVVF 制御方式の制御装置を搭載している。だが、鉄道車両の寿命は約３０年と長いため現役で走り続けている抵抗制御方式の主制御器を積んでいる車両もまだ少なくない。したがって、現役車両をメンテナンスするには、新旧両方の制御方式を理解していなければならない。和広はその両方を可能とすべく日々技術の向上を目指している会社である。

「安定した品質を維持することが一番の営業活動と考えている。ユーザーさんに頼られる企業でありたい」と京谷信雄工場長が胸を張るのは、堅実に古い技術を守り続けてきたからと言える。

②ローテクを伝承し、ハイテクに挑戦する

古い技術を守っていくには、技術の伝承も大きな課題だ。誰がやっても同じ製品に仕上がるように技術を受け継いでいかなくてはならない。職人気質の年配の方などの固有の技術をいかにして次の世代に伝えたらよいのか困ったそうだ。そこで作業の様子をビデオで撮影するなど工夫をした。ただ撮るだけではなく、何をしているのか解説しながら作業をしてもらったり、複数の人の作業を撮影したりと工夫を重ねている。

さらに、その記録を繰り返し何人もの目で見て、議論することで物作りの改善と標準化に取り組んでいる。

２．会社への思い（過去・現在・未来）

社長の鍵谷敏博氏が会社を起こそうと決意したのは中学三年生の頃だ。よきライバルでもあった京谷工場長と共に、自由を求めて 2 人の構想に合った「ユートピア（会社）」を目指してきた。その出発点は 1970 年代。「学生運動が盛んで若者に夢や生きがいなどなかった。そんな時代に夢や生きがいを持たせてやろうじゃないか！」という強い覚悟だった。その覚悟があったからこそボーナスを出すこともできない厳しい時代から「いつかやってやろう」という気持ちを持ち続けてきたのだ。

鍵谷社長は「社員一人ひとりが会社を作る」と語る。つまりは「すべての社員がリーダーだ」と。社長がお金を儲ける会社はない、利益のことを考えるのは周りを育てた後だという考えだ。社員一人ひとりに夢＝目標、生きがい＝責任、そしてリーダーとしての積極性を持って働いてもらう、ということが社長の出発点なのだ。そのことは社員にとってのユートピアが存在している証明にもなる。鍵谷社長が目指す和広というユートピアは社員一人ひとりのユートピアの集合によって創り上げられている、ということではないだろうか。

鍵谷社長に現在の夢を聞いた。

鍵谷社長の夢は 70 歳を過ぎてから百姓になることだ。「10 年計画の緻密な農業を成功させたい」と冗談交じりに話した。緻密な農業というのは「屋内で土壌を使わない完全無農薬の水耕栽培」や「24 時間光合成による促成栽培」など、工業の考え方を取り入れた農業のことだそうだ。いくつになっても新しい夢や目標を持つことが、生きがいを持てる秘訣に違いない。

３．和を広げるために

和広という社名には「和を広げる」という鍵谷社長の信念が込められている。鍵谷社長にとって「和を広げる」とは第一に仲間を集めることだ。仲間が集まりたいと思えるような会社作りに力を注いでいる。社員が会社への提案が気軽にできるように、提案してポイントが貯まると会社から謝礼金が貰えるポイント制の提案制度を設置。「週２回午前中のみ」など特別な勤務条件を設けて、定年を迎えた技術者の積極的な新規雇用・再雇用をするなど工夫を凝らしている。茨城県の自宅で在宅業務をこなす障害を持つ社員が在籍していることからも鍵谷社長の信念が感じられる。和広というユートピアに仲間が集まったおかげで、現在は本社がある神奈川県のほか、秋田県、山形県にもネットワークを広げている。また日本だけに留まらず、ベトナム、韓国、などの諸外国にもネットワークを広げている。

将来的にはそれらの製品のアフターケア（メンテナンス）が出来る企業を目指している。

最近ではベトナムの企業と連携を始めており、鋳造製品の製造技術移管を展開中、昨年末に第一次試作品が日本に入ってきた。ベトナムを選んだ理由は人件費だけでなく、素直な国民性で、政治的にも安定しているベトナムへの今後の期待がこめられている。

４．若者へ

今回の取材中に鍵谷社長、京谷工場長からたくさんのエールの言葉をもらった。現代の日本は本当に豊かになり、我々は生まれたときから多くの物に恵まれている。戦後の貧しさを経験し、学生運動で若い時代に夢も生きがいも持てなかった時代の若者や、ベトナムの若者とはスタートラインが違う。「考えたことを実行できるのが今の日本である」と我々がどんなに可能性に満ちているかを説いてくれた。

鍵谷社長の掲げた社是の中に、誠意・熱意・創意・気概という言葉がある。１つ聞きなれない気概という言葉について伺ったところ「夢と生きがいの無い時代に、夢と生きがいを持たせてやろうじゃないか！」「儲けに走らず、自信と信念を持ち続けることだ」という解答だった。40 年間同じ仕事を続けてきた鍵谷社長は、我々に「仕事を絶対に途中でやめるな」というメッセージを送ってくれた。「信念を貫き通せ。金は後からついてくる」と語る鍵谷社長の目はとても真剣だった。

工場を見学させていただいたとき、立派な鉄道のジオラマがあった。人や自然なども再現された可愛らしいものだ。近隣の小学生が見学に来るときのために作られたもので、壁には色とりどりのお礼状が貼ってあった。そして帰り際、鍵谷社長、京谷工場長は外まで出てきて、私たちの乗ったバスが見えなくなるまで見送ってくれた。こういうところにも２人の温かい人柄や、若い世代に対する期待などがうかがわれた。

和広は、物にも人にも優しく、愛情溢れた誠実な対応をしている会社だ。信念を貫くことの大切さも学んだ。鍵谷社長、京谷工場長からもらったたくさんのエールを胸に、私たちは夢を持ち進んでいくべきである。

（取材／文：上田 文穂、田中 智也）

所在地	町田市小山ヶ丘２－２－５－９ まちだテクノパーク
代表者	鍵谷　敏博
資本金	１０００万円
創　業	１９８９年
売上高	８億円
従業員数	５０名
事業内容	鉄道車両部品の製造とメンテナンス
電話（代表）	０４２（７９８）７５３１